

地域おこし県の協力が鍵

現場から ⑤

知事選2016

熊本城周辺を柔らかな竹あかりで包み込む「熊本暮らし人まつり みずあかり」は、熊本市の秋の一大イベントだ。

約5万4000本のろうそくが市街地を彩り、2日間約20万人が集まる。昨年で12回目を数えたイベントは、6000人を超える市民ボランティアと、約300の市民と企業からの協賛金が支える。

三城賢士さん(33)は、崇城大生だった2004年の第1回から「みずあかり」に関わってきた。演出などを担当し、「自分たちの手で並べた竹あかりに照らされた風景を見て、故郷・熊本の魅力を再発見できた」と語る。

07年、大学の研究室で一緒だった池田親生さん(33)と、竹あかりを使ったまちづくりを提案する「CHIKAKKEN(ちかけん)」を設立した。12年には株式会社化し、同市を拠点に全国各地で竹あかりのデザインや制作指導などを行っている。

地域活性化の起爆剤にしよう、県内外の自治体や住民から依頼が舞い込むが、補助金などが見込めなくなると声がかからなくなることもあるという。三城さんは「みずあかりは『自分たちが暮らす地域を自分たちの力で元気にしよう』という人たちの呼びかけと共感で成り立っている。企業が集中し、約70万人が集中する都市だからこそ、ここまで育ったと実感する。」

15年の国勢調査の速報値(10月1日現在)では、県の総人口は178万6969人で、10年の前回調査より3万457人減った。一方、県人口の4割を占める熊本市は74万1115人で、前回調査比で6641人増えた。人口が増加した自治体はいずれも同市近隣の熊本市圏だ。

人口以外でも、様々な数字が熊本市圏への一極集中を裏付ける。昨年の県内の路線価では、価格が上昇した531地点のうち、約9割の481地点を熊本市が占めた。

地域間格差



「海あかり」の竹組み作業に汗を流す船原さん(左下)

人口減少率が4番目に高い上天草市では、今月卒業した中学3年の約3割が熊本市内の高校を受験。上天草市によると、ここ10年間で10〜20歳代の人口減少率は3割を超えるという。

◆ 今月上旬、上天草市に「ちかけん」のメンバーの姿があった。天草五橋の開通50年を記念して、住民有志が企画したイベント「天草海あかり」の制作指導を請け負ったからだ。

12日夜、竹あかりのほのかな光が天草の海を照らした。点灯作業などに加わった上天草高の生徒たちからも歓声が上がった。

「『海あかりがあるから地元に帰ろう』。そう思ってもらえるように根付かせたい」。地元の実行委員の一人、船原英照さん(48)は願いを込めた。「県内で均一な施策ではなく、天草は天草、菊池は菊池など、地域の実情や特色に合わせた地域おこしを県にも一緒に考えてほしい」と望んだ。

(おわり。この連載は、有馬友則、大森祐輔、大野亮二、愛野翔太郎、今村知寛が担当しました)